

採用案内

建築、電気・電子・情報、機械 区分

技術を活かして 地域に残る公共建築を。

～ 公共建築のトータルコーディネーター ～

問い合わせ先

〒460-8514 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1
中部地方整備局営繕部計画課
電話:052-953-8185

中部地方整備局採用サイト

<https://www.cbr.mlit.go.jp/recruitment/index.htm>

中部地方整備局 営繕部ホームページ

<https://www.cbr.mlit.go.jp/eizen/index.htm>



国土交通省 中部地方整備局営繕部

□ 国土交通省の「官庁営繕」とは

国家機関の建築物(官庁施設)は、行政サービス提供の場としてだけでなく、災害時の防災拠点や、地域の交流拠点としての役割を担っています。

国家機関の建築物の整備は、一部の特殊な施設などを除いて、国土交通省の営繕部が一元的に実施しています。

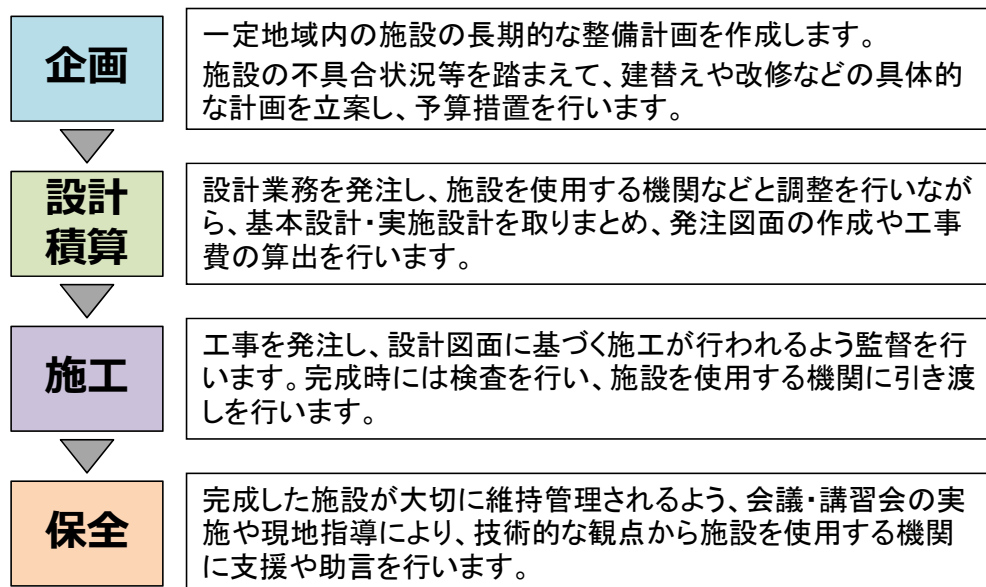
※営繕とは「建築物の営造と修繕」のことをいい、建築物の新築、増築、修繕、模様替等の工事を指します。

□ 中部地方整備局 営繕部の業務

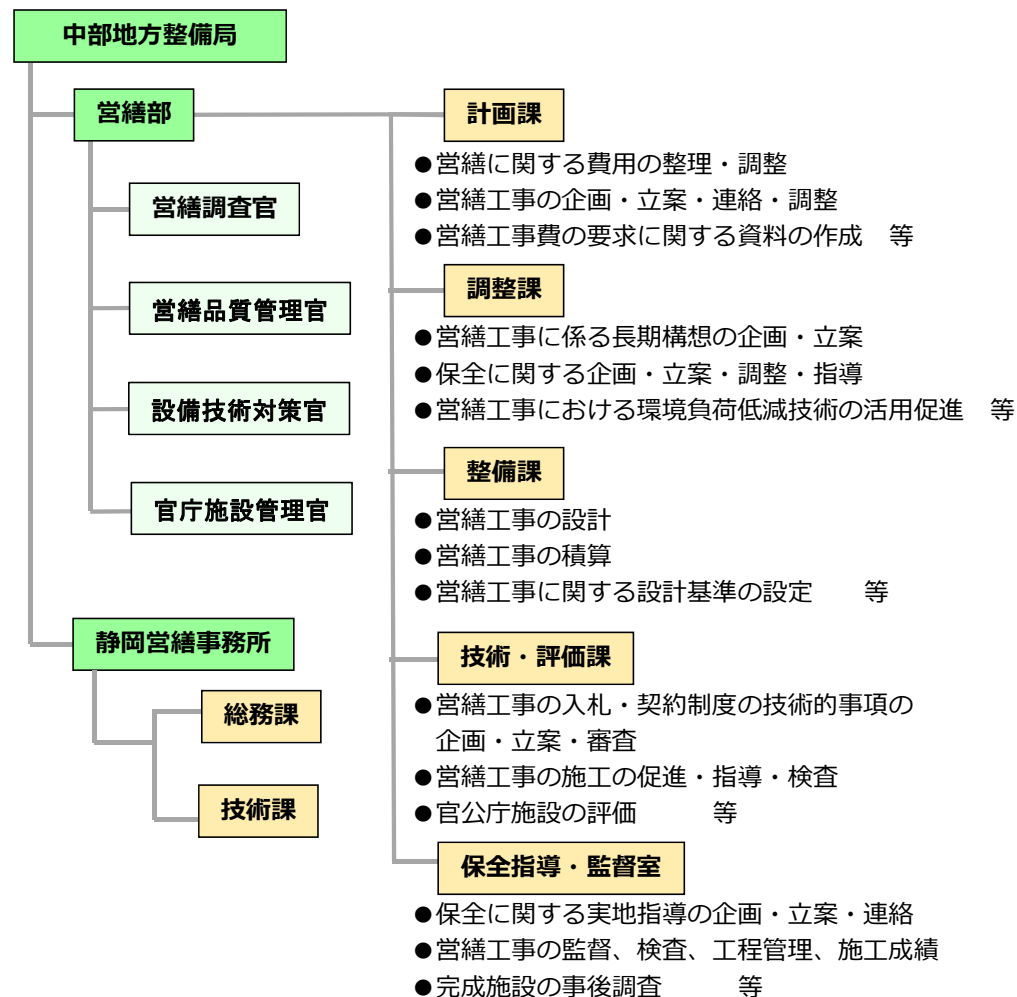
中部地方整備局 営繕部は、中部地方の4県(愛知県、岐阜県、三重県及び静岡県)を管轄しています。

営繕部では、国家機関の建築物のトータルコーディネーターとして企画、設計、施工、施設完成後の保全という建物のライフサイクルの各段階で様々な業務を行っています。

□ 営繕業務の流れ



□ 組織

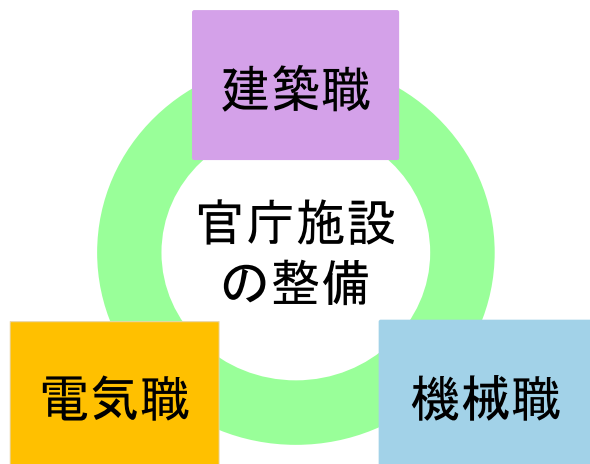


管轄区域図



□ 営繕の「技術者」

営繕部では、建築職、電気職、機械職それぞれの専門知識を持つ担当者が、お互いに密接に連携しながらチームとして業務を行い、官庁施設の整備を行っています。



□ 建築設備担当の出身学科

営繕部は国家機関の建築物(官庁施設)の整備を行っています。これを聞くと「建物にも照明や空調など色々な設備が必要なのは分かっているけど、建築の知識がない自分にもできる仕事なんだろうか」と思う人もいるのではないでしょうか。

その気持ちはよく分かります。しかし、工学系の大学等で建築設備全般を教えてくれる学科はほとんど存在しません。

そのため、今営繕部で建築設備を担当している人たちは、電気科、機械工学科をはじめとして、学科を問わず建築設備に興味を持って応募し、就職後に先輩から色々教えてもらって仕事を覚えた人がほとんどです。

このパンフレットを見て、建築設備に興味を持たれた方は是非担当者(巻末ページ参照)までご連絡下さい。

□ 建物の「電気設備」「機械設備」

建物には様々な建築設備が使用されており、電気設備には照明設備、受変電設備、通信設備など、機械設備には空調設備、給排水衛生設備、エレベーター設備などがあります。

建築設備は建築物の基本的機能を支える重要な役割を担っています。建築設備の設計では、適切な容量を設定し、快適性を考慮したうえで、関連する法令に基づく機器を選定する必要があります。

電気設備



太陽光発電設備
(屋上)



厨房機器
(厨房)



空調室外機
(屋上)



衛生設備
(トイレ)



照明設備
(事務室)



中央監視装置
(管理室)



自家発電設備
(自家発電室)



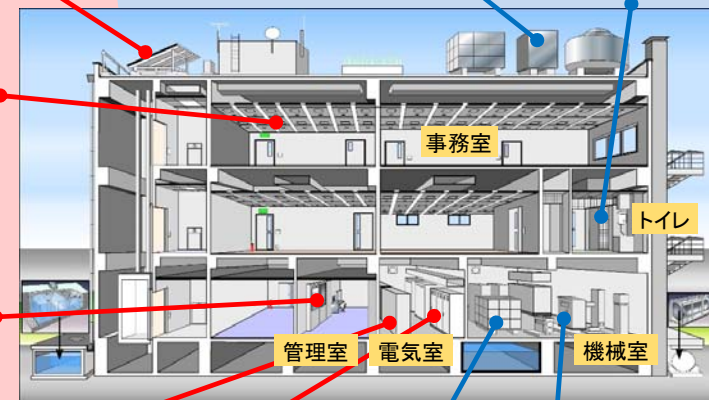
受変電設備
(電気室)



熱源機器・ポンプ
(機械室)



実験用設備(機械室)



機械設備

□ 建築職



伊藤 里帆(平成31年入省)
整備課 建築設計審査係

○仕事の内容

建築の意匠担当として、設計図面の確認などを行っています。入居官署のニーズを聞きながら、より良い官庁施設となるように整備課の技術力を行使して設計を進めています。

○仕事のやりがい・魅力

図面に描かれていたものが、実際に建設されていく様子を見ることが出来るのが魅力だと思います。特に、設計の際に工夫を凝らしたところや苦心したところは、完成したときにやりがいと達成感を味わうことが出来ます。

○メッセージ

とても雰囲気の良い職場で、女性も働きやすい環境です。質問のしやすい雰囲気、先輩や上司の方々が的確なアドバイスをくださるので、1年目の私でも、少しは整備局の一員として公共の役に立てたのではないかと感じています。国家公務員として、専門性を活かして活躍したいという方、ぜひ一緒に働きましょう。



模型を使った会議



早川 尋美(平成8年入省)
計画課 調査係長

○仕事の内容

官庁施設の建て替え、耐震化、老朽化対策を計画的に行うため、これらに関する調査と企画立案の仕事をしています。



施設の不具合状況を調査し、建て替えや修繕の計画を立てています。

○仕事のやりがい・魅力

行政サービスの提供や災害応急対策活動を支える「縁の下力持ち」として、とてもやりがいのある仕事です。

○メッセージ

男女を問わず、仕事とプライベートを両立し生き活きと働く多様なロールモデルがいますので心強いと思います。

経歴

H 8 計画課 配属	H16~17 育児休業
H11 建築課(意匠担当)	H18 整備課(積算担当)
H13 静岡営繕事務所 (現場監理担当)	H21~22 育児休業
H15 一級建築士 取得	H27 愛知県道事務所
	H30 計画課

□ 電気職



宮地 明孝(平成30年入省)
整備課 設備技術係

○仕事の内容

営繕部整備課では官庁施設などの国の建物について設計や積算を行っています。中でも私は電気設備分野を担当しており、受変電・情報通信設備等の設計を行っています。デスクワークだけではなく、実際に建物を見に行き現地の調査をしたり、その建物の管理者と打ち合わせをすることもあります。

○仕事のやりがい・魅力

災害を考慮した設計を心がけており、非常事態に対応できる施設の設計にやりがいを感じています。

○メッセージ

大学では電気・情報工学を学んでおり、建築についての知識は全くない状態で働き始めましたが、上司や先輩方のフォローのおかげで、建築分野を一から学びながら楽しく働いています。本当にありがたい雰囲気の職場なので、電気職の方も不安に思わず一緒に働きましょう。



受変電設備

□ 機械職



浪崎 雅史(平成22年入省)
静岡営繕事務所 防災保全係長

○仕事の内容

営繕事務所では、営繕工事の監督や官庁施設の保全指導、防災対応などの業務を行っています。いずれの業務も現場に近い位置で行うこととなりますので、施設管理者をはじめとする関係者と協力して業務を行っています。

○仕事のやりがい・魅力

工事監督としてもづくりの現場に携わることが出来ますので、建築技術者のひとりとして非常にやりがいを感じています。また防災担当として、近い将来に予想される災害に備え、公務員として責任感をもって公務を行うことができます。

○メッセージ

機械職は建築に関する知識がない状態で入局することが多いと思いますが、仕事内容を上司や先輩方から優しく教えてもらうことができますので、安心して職場へ来て下さい。



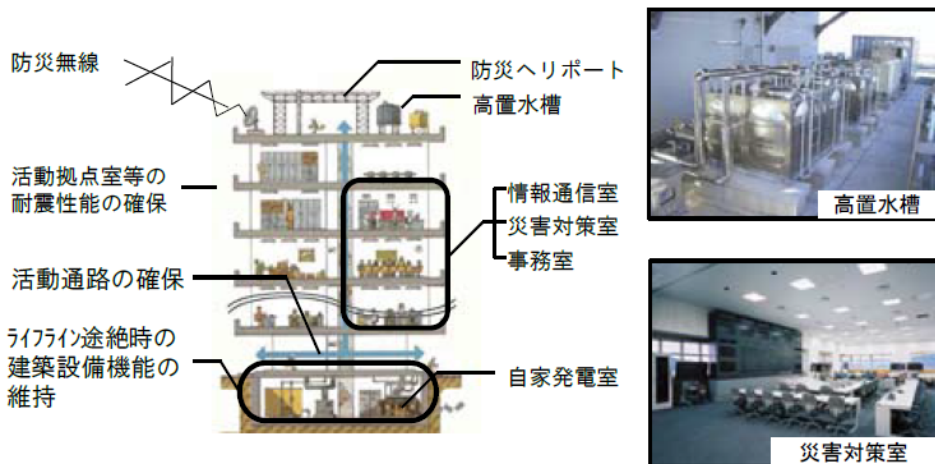
空調設備機器

□ 防災・減災

○耐震化の推進

官庁施設は、来訪者等の安全を確保するとともに、大規模地震発生時に災害応急対策活動の拠点として機能を十分発揮できるよう、総合的な耐震安全性を確保する必要があります。

国土交通省では、大規模災害の発生に備え、防災拠点となる官庁施設の整備を推進し、災害に強い地域づくりを支援しています。

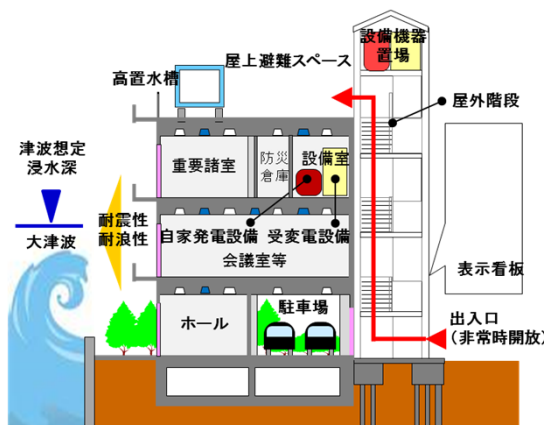


広域的な防災合同庁舎(イメージ図)

○津波対策の推進

官庁施設は、津波襲来時に一時的な避難場所の確保による人命の救済に資するとともに、防災拠点としての機能維持と行政機能の早期回復を図る必要があります。

国土交通省では、津波対策の整備を行うとともに、官庁施設を運用管理する機関と連携して、総合的かつ効果的な津波対策を推進しています。

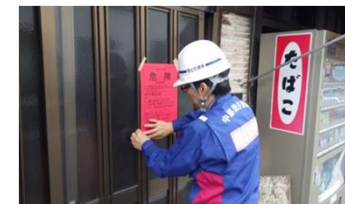


官庁施設における津波対策(イメージ図)

□ 災害発生時の技術的支援(TEC-FORCE)

国土交通省では、災害発生時に各省各庁に対して、被災した官庁施設の継続使用の可否や応急措置の要否等の判断にかかる技術的支援を実施しています。

中部地方整備局では、平成23年3月に発生した東日本大震災や平成28年4月に発生した熊本地震などにおいて、地方公共団体からの要請を受けて緊急災害対策派遣隊(TEC-FORC)を派遣し、被災建物応急危険度判定、被災した公共建築物等の現地調査や技術的な助言を実施するなどの支援を行いました。



被災建物の応急危険度判定



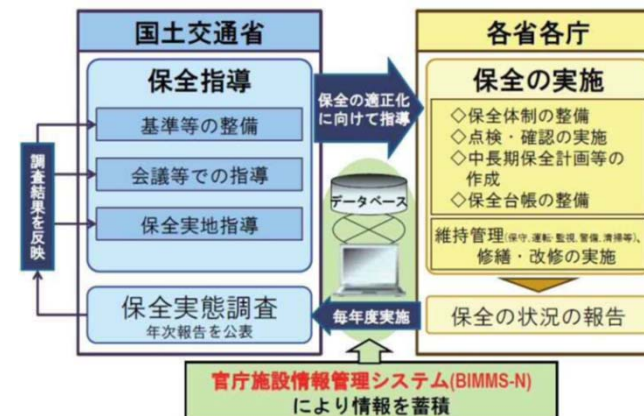
公共施設の被災状況調査

□ 保全と長寿命化

国土交通省では、「官庁施設情報管理システム」を導入し、インターネットを通じて、全ての官庁施設の基本的な保全情報を把握・分析しています。

中地方整備局では、このシステムを利用して、保全の状況の改善が必要な施設に対する保全指導を行うとともに、各省各庁による保全に対して、実施方法や内容に係る技術的な指導や支援を行っています。

また、老朽化の進行を防ぐ長寿命化事業(ハード対策)や、効果的・効率的に機能維持するための保全指導(ソフト対策)を実施することにより、官庁施設の戦略的な維持管理・更新に努めています。



□ 地域連携

官庁施設は都市の中核施設であり、地域の交流拠点となる場合もあります。国土交通省では、地方公共団体をはじめとする様々な関係者と連携し、まちづくりに貢献するような官庁施設の整備を推進しています。

岡崎地方合同庁舎の整備にあたっては、市の施設と一体的に整備を行い、市民活動の拠点となる地区を形成しています。



岡崎市シビックコア地区

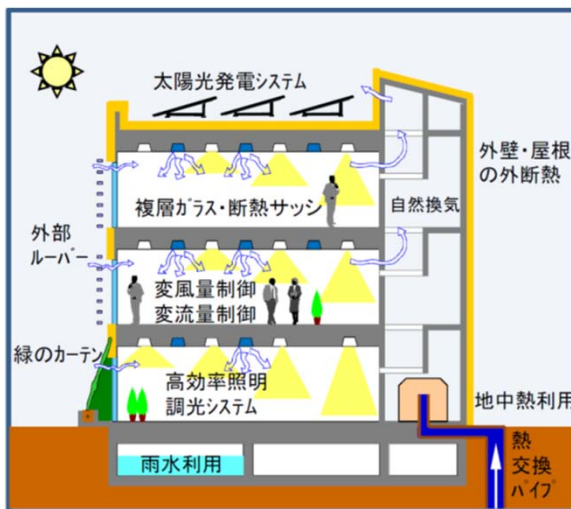


地域の核となる交流広場

□ 環境対策

建築物は、その計画から建設、運用、廃棄に至るまで、大量の資材とエネルギーを必要とし、常に環境に負荷を与えています。

国土交通省では、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減を目指し、我が国の建築分野における環境対策の模範となる環境負荷低減に配慮した施設整備を推進しています。



環境負荷低減に配慮した官庁施設 (イメージ図)

□ 木材利用推進

平成22年に施行された「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が施工されたことを受け、官庁施設の整備において、木造化や内装等の木質化を推進しています。



天井木製ルーバー

□ 働き方改革・生産性向上

国土交通省では、建設業全体の働き方改革を推進するため、官庁営繕事業における取組をパッケージ化して推進しています。

また、働き方改革に向けた取組と併せて、ICT技術の積極的な活用を行うことで、建設現場における更なる生産性向上を推進しています。

建設業における取組	営繕工事における取組	ICT活用等の取組例
適正な工期設定・施工時期等の平準化 建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン第1次改訂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適正な工期設定 <ul style="list-style-type: none"> ・「公共建築物等における工期設定の基本的考え方」、「建築工事適正工期算定プログラム(自建連)」を踏まえた適正な工期設定。必要な工期延期 ・各工程の施工期間の確保(監督職員が実施工程表で確認。なお、概成工期(受電時期の目安)を発注時に設定) ○ 週休2日の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・公共建築工事標準仕様書等において原則週休2日を適用 ・週休2日促進工事(労務費の補正・モニタリング等)を実施、モニタリング結果に応じた必要な改善 ○ 施工時期等の平準化 <ul style="list-style-type: none"> ・(発注負担行為)適正な工期確保、完成時期の分散化(もろもろ)や余裕期間制度の活用(原則化) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 電子小黑板の本格活用 ▲ 施工合理化技術の導入促進(例:コンクリート保土上げロボット) ▲ ICT建築土工を活用した施工
必要経費へのしわ寄せ防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予定価格の適正な設定 <ul style="list-style-type: none"> ・営繕積算方式において法定福利費・安全衛生経費を適切に計上 	
生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの積極的な活用等 <ul style="list-style-type: none"> ・施工BIMの試行(改修工事に拡大)、BIMを用いた基本設計(試行) ・情報共有システムの活用(必要な機能要件を明確化、全国で本格活用) ・電子小黑板の活用(原則全ての営繕工事で本格活用) ・発注・完成時の評価による施工合理化技術の導入促進(発注時の評価を改修S型に拡大、発注・完成時の評価・加算対象の明示技術を追加) ・ICT建築土工の試行・BIMガイドラインの改定 ・生産性向上に配慮し改定した仕様書の適用 ・生産性向上技術の導入に関する調査検討(2019年度内に手引きを作成) 	
下請契約における取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書類の簡素化 <ul style="list-style-type: none"> ・書類の簡素化(適用の徹底)、省略・集約可能な書類等の明確化(適用の徹底) ・国の統一基準として工事の標準書式を制定 ○ 関係者間調整の円滑化(建築固有の対応) <ul style="list-style-type: none"> ・設計者から施工者等への遅滞ない設計意図伝達(報告等の期限を遵守する旨を規定) ・関連する工事間での納まり等の調整を効率化(施工作成ガイドラインやBIMの活用) ・関係者間の情報共有や検討を迅速化(会議の早期開催、ASP等の活用) 	
適正な工期設定等に向けた発注者支援の活用		

公共建築工事、民間建築工事の受発注者への普及促進

営繕工事における働き方改革・生産性向上の取組

□ 完成施設

浜松地方合同庁舎 (H20)



岐阜地方・家庭裁判所大垣支部 (H30)



静岡地方法務局藤枝出張所 (H26)



名古屋港湾合同庁舎別館 (H22)



愛知県警察学校 (H25)



□ 耐震改修・対津波改修

名古屋第2地方合同庁舎: 免震レトロフィット改修 (H18)



地下1階に
免震装置を設置



名古屋第3地方合同庁舎
: 耐震改修 (H26)



清水港湾合同庁舎
: 耐震・対津波改修 (H26)



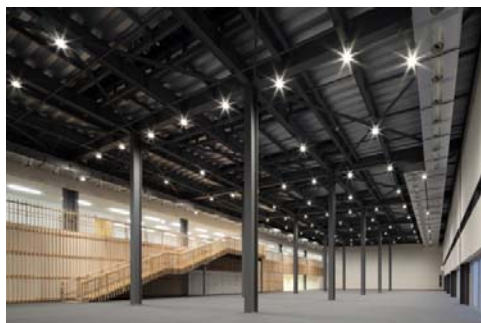
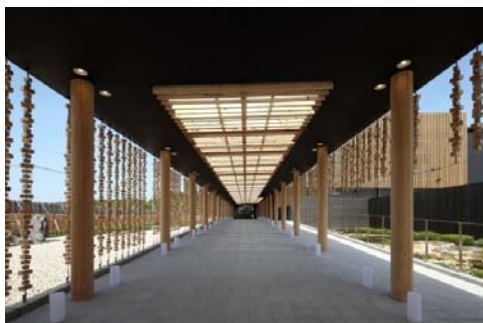
名古屋国税総合庁舎
: 耐震改修 (H27)



□ 完成施設(伊勢志摩サミット 国際メディアセンターアネックス)

伊勢志摩サミット国際メディアセンターは、2016年5月に開催された、伊勢志摩サミットにおける報道関係者の情報発信拠点です。アネックスは、既存施設を最大限活用した上で不足する部分を仮設庁舎として整備しました。

整備にあたっては、地元の伝統的なデザインを活用するなど「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える施設としつつ、仮設施設として駆体・仕上げの簡素化及び建築資材等のリユース・リサイクルを徹底しました。



□ 完成施設(愛知万博日本館)

2005年に開催された愛知万博の日本政府パビリオンとして、長久手日本館、瀬戸日本館の2館を整備しました。

整備にあたっては博覧会テーマ(自然の叡智)に沿って様々な環境配慮技術を導入しました。

○長久手日本館



外観



間伐材の束ね柱



竹ケージと壁面緑化

○瀬戸日本館



外観



円形シアター



準耐火外壁木質パネル